学びの風便り

リーディングスクール通信 09　　R5.9.29

発行：松本市教育委員会　教育研修センター

特集！学びの改革のあゆみ　筑摩野中学校・田川小学校

筑摩野中学校

筑摩野中学校では、「聴く学校」「対話を基盤とした授業」を通して、「深く考え、逞しく生きる生徒」の育成を目指し、今年度の教育活動を展開しています。

４人で向かい合って聴き合い、探究し合う学習へ

４人１組のグループ座席での授業の一場面

５月８日より、全学級で教室での４人１組のグループ座席での授業がスタートしました。４人で向かい合っての授業風景では、自然と対話が生まれています。さらに、生徒同士が自然と関わる工夫、自ら動く工夫のある授業づくりにより、対話的・協働的な学びの姿がよく見られました。また、１学期末には、職員間で、４人１組の協働的な学びをふり返っての自分の成果と課題を出し合い、共有しました。「一人ひとりの生徒の学ぶ権利を保障し、その学びの質を高める」ためには、「わからない」という友への問いから始まる「対話を基盤とした授業」が不可欠です。分かった生徒が主導となり進める「話し合い」ではなく、一人ひとりの生徒が「語り合い」のできる学びづくりを目指していきます。

村瀬公胤先生の授業クリニック　～学び合いは教え合いではなく、考え合い～

村瀬先生の授業クリニックの一場面より

７月 18 日には麻布教育研究所の村瀬公胤先生を招き、校内研修「授業クリニック」を行いました。３年生の社会、英語の共同参観の後の授業懇談会では、職員も４人グループに分かれ、生徒の表情や学ぶ姿から子どもの学び方の多様性を語り合いました。村瀬先生からは、協働の学びについてお話があり、今、必要なのは子供たちが「考える」授業であり、習得型から、深い学びにつながる探究型の授業にしていくこと、考えた／学んだ結果の交流“話し合い”の学び合いから、考える／学ぶ過程の共有“考え合い”の学び合いを目指していくことなどが示唆されました。協働的で探究的な学習とは、学び手が「選び、考え、表現する」学習であり、子どもたちの学びが深まる“問い”が重要になります。村瀬先生には具体的に複数の教科で例をあげて探究型の問いをご紹介いただきました。教科会などで「対話の質を高めるための効果的な問い」を検討し、より協働的で探究的な学びの場をつくっていきます。

探究型の問いの例

【数学】次の連立方程式で表せる物語を作りなさい。

$2X+3Y=170$

$5X+8Y=260$

【家庭科】お弁当を５つ提示し、「どのお弁当が１位でしょう。理由と合わせて説明しなさい。」

田川小学校　子どもの「行為」から「思いや願い」をとらえる

田川小学校では、以前から校内研究の基本的な立ち位置として「子どもの行為をありのままにとらえ、子どもにとっての意味を見出し、子どもの思いや願いを読み取る」教師の力量を伸ばすことを大切にしてきました。（歴代の研究紀要の表紙に、常にこの言葉が刻まれてきたそうです。）

今年度、学びの改革パイオニア校として「探究的な学び」へ全校で挑戦するにあたり、田川小学校の先生方は改めてこの「原点」に立ち戻ることにしました。子どもが「材」や仲間と関わり、どのような「思いや願い」で行為（＝表現）に向かったかを思い描くことは、子どもの「問い」の芽を伸ばして学びにつなげたり、子どもたちの「学び」を評価したりする上で、とても大切であると考えたからです。

そして、この視点から、校内研修や授業づくりとそのリフレクションを重ね、子どもと先生の事実に学びながら「子ども観」「授業・指導観」の更新を重ねてきました。ここでは、このような田川小学校の先生方の挑戦の一端をご紹介したいと思います。

授業研究会　子どもの写真を共有し、「行為の解釈」を語り合う

今年度、田川小では参観の先生方が授業で着目した子どもの姿をカメラに収め、それをもとに、その時の子どもの様子と、そこから想像される子どもの想いを語り合う、という形で授業研究会をもちました。

授業後、研究会に先立って、先生たちは撮影した写真を共同編集のスライドに貼り付け、コメントを追記します。そして、研究会では、まず、各グループで写真を見ながら、その子どもの学びを振り返り、その後それを全職員で共有していきます。写真を示しながら、豊かにその子の想いを想像し、行為の背景に思いを巡らせ、活き活きと語り合う先生方の姿が生まれました。

同僚の先生から学びあう　「だいず日記」

「大豆」とともにある日々の暮らしの中での子どもの姿と、それをとらえた自分の思いを「だいず日記」として毎回綴ったＦ先生。授業づくりを進めているときに先輩の先生のアドバイスをきっかけに始め「すっかりはまってしまいました」（本人）とのことです。記録は多い日には１日数ページに及ぶことも。授業では子どもたちの思いをとらえた温かい支援が光りました。若いＦ先生の実践に、全校の先生が学びました。

教育課程研究協議会　田川小学校の「ソウル」が広がる

田川小学校では、本年度、特別支援教育の観点で探究的な学び（総合的な学習の時間）の授業を公開しました。そして、当日の授業研究会を田川小学校が積み重ねてきた「子どもの様子をとらえ、その様子と解釈を分かち合う」方式で実施しました。

他校からの参会者の先生方は、初めは少し戸惑ったものの、田川小の先生方の先導もあり、やがて、自分がとらえた子どもの様子と「背景にはこういう思いがあったのではないか」という解釈を活発に交わされました。どの先生からも「子どものよさ」が語られ、研究会場が、とても温かな雰囲気に包まれました。助言者の南信教育事務所指導主事の宮坂 肇先生は「田川小学校の研究は、子どもから学び、先生方が自身を改善していく営み」と評されました。田川小学校の取組のエッセンスが、参会者の先生方をとおして広がっていく、そんな実感を得た機会となりました。

お知らせ

★各校の取組み状況を随時松本市教育委員会のホームページでお知らせしています。
（毎週更新）　右の QR コードからぜひご覧ください。